

味の素株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 業種：食品製造 ● 事業概要：調味料・加工食品、冷凍食品、コーヒー類、加工用うま味調味料・甘味料、動物栄養、化成品、アミノ酸の事業活動 ● 事業規模[任意]：売上：1,091,414百万円、118工場、従業員数：32,734名)
2.削減目標案 ※定量値公表が難しい場合、定性的説明でも可	<p>＜<u>Scope 1・2の削減目標と削減に向けた取り組み</u>＞</p> <p>T1：Scope1・2の生産量比排出原単位を2030年に2015年度比25%削減。 安定稼働、高効率機器・バイオマス燃料の導入、再生可能エネルギー電力の購入。</p> <p>＜<u>Scope 3の削減目標と削減に向けた取り組み</u>＞</p> <p>T2：Scope3の生産量比排出原単位を2030年に2016年比30%削減。 アミノ酸発酵の主原料の不可食原料使用の研究開発と導入およびモーダルシフト推進・積載率向上・通販方式の見直し。</p>

味の素株式会社

項目	内容																									
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<p>● Scope 1・2・3の排出量の状況</p>	<p>● SCOPE1 : 1,270,429[tCO₂]</p>																								
	<table border="1"> <caption>GHG Emissions by Category</caption> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SCOPE1</td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>SCOPE2 (マーケット基準)</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>SCOPE3_カテゴリ-1 (購入原料)</td> <td>56%</td> </tr> <tr> <td>SCOPE3_カテゴリ-4 (上流の輸送)</td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>SCOPE3_カテゴリ-11 (製品の使用)</td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>SCOPE3_カテゴリ-3</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>SCOPE3_カテゴリ-2 (資本財)</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>SCOPE3_カテゴリ-5 (事業上の廃棄)</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>SCOPE3_カテゴリ-6 (出張)</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>SCOPE3_カテゴリ-7 (通勤)</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>SCOPE3_カテゴリ-12 (製品の廃棄)</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	SCOPE1	9%	SCOPE2 (マーケット基準)	8%	SCOPE3_カテゴリ-1 (購入原料)	56%	SCOPE3_カテゴリ-4 (上流の輸送)	9%	SCOPE3_カテゴリ-11 (製品の使用)	9%	SCOPE3_カテゴリ-3	3%	SCOPE3_カテゴリ-2 (資本財)	2%	SCOPE3_カテゴリ-5 (事業上の廃棄)	1%	SCOPE3_カテゴリ-6 (出張)	0%	SCOPE3_カテゴリ-7 (通勤)	0%	SCOPE3_カテゴリ-12 (製品の廃棄)	3%	<p>● SCOPE2 : 1,121,769[tCO₂]</p>
	Category	Percentage																								
SCOPE1	9%																									
SCOPE2 (マーケット基準)	8%																									
SCOPE3_カテゴリ-1 (購入原料)	56%																									
SCOPE3_カテゴリ-4 (上流の輸送)	9%																									
SCOPE3_カテゴリ-11 (製品の使用)	9%																									
SCOPE3_カテゴリ-3	3%																									
SCOPE3_カテゴリ-2 (資本財)	2%																									
SCOPE3_カテゴリ-5 (事業上の廃棄)	1%																									
SCOPE3_カテゴリ-6 (出張)	0%																									
SCOPE3_カテゴリ-7 (通勤)	0%																									
SCOPE3_カテゴリ-12 (製品の廃棄)	3%																									
	<p>● SCOPE3 : 8,954,129[tCO₂] 目標の対象セクター : 1, 4</p>																									

味の素株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none"> ● 化石燃料への炭素税などの施行により、コストが上がる。 ● 熱帯性低気圧の襲来によるインフラや設備の故障のため、生産機会の損失。 ● 降水極地と干ばつによる農作物不作のため、主原料のコストが上がる。（人口増加による食資源逼迫も同様） ● 温暖化防止意識向上により温暖化抑制化効果のある飼料用アミノ酸の活用の拡大。 ● 平均気温上昇によるアミノ酸飲料の売上増加。 ● サプライヤーも巻き込んだ省エネ活動の推進により製品コスト削減。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none"> ● より深刻となってきた温暖化を防止するため、2度目標を達成するよう環境中長期目標の改訂版を策定し、その取り組みを通して社会的な存在価値を高める。（SBTの認定を視野に策定）

味の素株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● 環境マネジメント体制において、事務局で目標案を検討し、環境会議・経営会議・取締役会で承認を受けた。目標は、2度目標達成を視野に入れている。● 目標の実現可能性の議論があったが、2030年時点の事業環境の変化は見通せないことや、社会課題解決に向けた強い意思表示として社内承認を得た。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● 日本国内において、再生可能エネルギーをはじめとする温暖化影響の少ないエネルギーへのシフトの検討が必要。● 生産プロセス改善のため、研究開発部門とのさらなる連携強化が必要。● Scope3の 카테고리1の削減目標の達成のために、サプライヤーとの協働取り組みの実践。